



第42回定期大会 大会宣言

大会宣言

JR 東労組東京地本は、「第 42 回定期大会」を東京地本会議室において開催し、スローガンをはじめとする運動方針や、組織実態に踏まえた規約・諸規則の改正など満場一致で確認し、水戸地本の仲間を加え、東京地本の新たな一步を踏み出した。

第 46 回定期地本委員会以降、2025JR 総連春闘では 3 日間の意見交換交流会や東京地本と首都圏協議会の合同で「25 春闘総決起集会」を開催した。特に「25 春闘総決起集会」には 90 名を超える仲間が結集し、春闘のたたかう雰囲気を作り出したことは大きな成果であった。一方会社からの回答は、要求とは程遠く、社員間格差が拡大する早期回答を示し、春闘破壊と世間体第一の経営姿勢が鮮明になった。また夏季手当の同時期議論では、わずか 0.1 ヶ月プラスという回答を示し、過去最高の働き度に報いる姿勢は全くない。このような経営姿勢を突破するためにも「統一要求・統一闘争」でたたかい抜いた 2025JR 総連春闘の教訓を活かし、年末手当のたたかいへと向かっていこう。

2025 年 3 月 15 日、首都圏本部管内は 8 つの統括センターが完成したが、わずか 2 ヶ月後の 5 月 7 日に「JR 東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」が示された。本社と 36 事業本部の二層構造へ組織再編し、「究極の融合と連携」という名の生産性向上で労働強化され、評価が不透明な人事・賃金制度が導入されようとしている。また 7 月 1 日、グループ経営ビジョン「勇翔 2034」が新たに発表されたが、JR 東労組は、「定期昇給を軸とした新たな格差と分断、不利益変更反対！安全・健康・生活を守るため、全組合員でたたかう！」のスローガンの基、「安全・健康・ゆとり」に加えて「生活を守る」ために、私たちの全ての仕事の特殊性を明確にしながら、会社の狙いを明らかにし、「騙されない」議論で要求をつくり、団結を打ち固めよう。

今、私たちが作り出してきた安全と風通しの良い職場環境が揺らいでいる。新幹線での郡山駅での滑走や列車分離などの大きな事象や、輪軸組み立て作業の改ざん、山手線の架線トラブル、横須賀線のレール破断などの事故・事象が続いている。鉄道の安全を守ってきたのは、経験に裏打ちされた技術継承とチームワーク、「責任追及から原因究明へ」の安全文化の定着に向けた職場の努力・奮闘である。その職場では不当・不法行為、強制転勤やハラスメント行為は、「被害者が加害者にされた！JR 東日本武蔵小金井駅暴行事件」に留まらず、報道を見ての告発や組合員、未加入者からの報告を聞いても実際に職場で横行していることは明らかである。東京地本は、悩み苦しむ職場の皆さんを支え、安心して働ける職場環境と鉄道の安全をつくり出していく。

このような経営姿勢がグループ会社まで貫かれている中、JR 東労組の大切さを共感したバス関東と JESS の若者が新規加入したことは大きな成果である。職場内で JR 東労組の大切さを広め、さらなる組織強化・拡大を実現していこう。また加入した組合員が、那須塩原市議会議員選挙に挑み、多くの票を獲得して当選した。平和で安心して暮らせる社会を実現するには、私たち一人ひとりが政治に参加しなければ変えられない。だからこそ、JR 総連・JR 東労組と想いを共にする推薦議員の当選に向けて、7 月 20 日に投開票される参議院議員選挙に期日前投票から参加し、戦後 80 年を迎える今、戦争の足音を感じながらの生活にさせないために、一人ひとりがたたかい抜こうではないか！

以上宣言とする。

2025 年 7 月 12 日
東日本旅客鉄道労働組合
東京地方本部第 42 回定期大会

安心して働ける職場環境と、安全な鉄道をつく出そう！